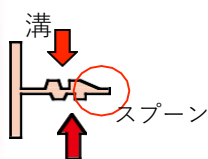


# タッチスティック

## 使用目的

タッチスティックには2つの治療目的があります。

1. 溝に合わせて咬合することで下顎を正しい位置に誘導します。
2. 口腔内のスプーン上の坂に舌を載せる事で、舌の位置を正します。



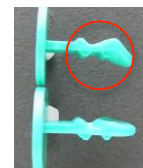
## 種類

タッチスティックには合計6種類あります。  
使用年齢、咬合様式、スプーンの形状の違いで使い分けます。

計6種	タッチスティック2 正常咬合	タッチスティック 切端咬合	タッチスティック 正常咬合
大(成人用)			
小(小児用)			

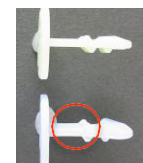
### ◆タッチスティック2とタッチスティックの違い

タッチスティック2(上)はスプーン部の角度が高くなっています。

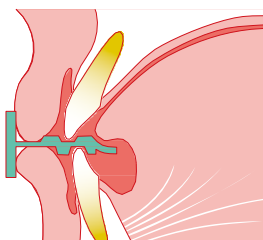


### ◆正常咬合用と切端咬合用の違い

切端咬合用(下)はⅢ級で構成咬合が取りづらい患者さんのために使用します。治療経過により、正常咬合への交換が可能です。

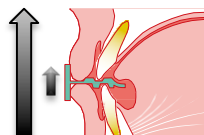


## 使用方法

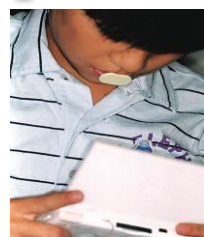


- ①タッチスティックの溝に合わせて上下顎前歯の切端がはまるように軽く咬合します。
- ②口唇でタッチスティックをそっとホールドします。  
(口唇に力を入れないように)
- ③舌の先端をタッチスティックのスプーン部にのせ、舌全体が口蓋に挙上することを意識します。  
一日30分以上続けます。

## 指導上のポイント



タッチスティックは必ず板面と顔面が平行になるようにくわえるよう指導をしてください。  
角度がついたままくわえると、下顎の誘導の効果が出ません。



トレーニングの効果が上がりやすいのが、テレビを見ているときやゲームをしている時です。  
習慣化の理論として、「苦しい事(勉強やその他のトレーニング)にプラスしないで、楽しい事(ゲームやテレビ)にプラスすると効果が上がる」と言われています。テレビの横に置き、トレーニングが習慣化しやすい環境を作る指導も必要です。

## 指導上の注意

- ・ 使用後は水洗いし、清潔な場所に保管してください。
- ・ 低年齢の小児の場合には保護者へご指導ください。
- ・ 必ず十分な指導の下に患者様にお渡しください。
- ・ 目的用途以外の使用はしないでください。